

事業報告書

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

公益財団法人 和敬塾

1. 事業の概要

本年度におきましても、建塾の趣意に則り、その目的を達成するために「公益財団法人和敬塾 定款」第4条の各事業を行いました。

近年は少子化並びに青少年の価値観の変化等から入塾希望者の減少が見られ、本年はこれを従来型からの変革の時期ととらえ、これまで培ってきた良き精神文化を継承しつつ、広く社会に和敬塾の存在を知らしめるとともに、前途有為な青年の輩出を図るべく、役職員一同、下記の事業に取り組みました。

次に、実施しました事業の活動の概況等を項目別にご報告致します。

(1) 学生寮並びに研修施設・体育施設・生活施設の運営（1号事業）

①共同生活の場である各施設の良好なる状態の維持の為の改修工事等

* 厨房天井改修第二期工事を行ない、全ての工事が完了した。

* 空調設備、電気設備、エレベーター、給排水ポンプ、ボイラー、消防設備、特殊建物等の各種保守点検を行なった。

* 空調機等の修理並びに取り換え工事を行なった。

* 保護樹木の剪定を行なった。

②現有施設の保守並びに有効利用

* ①項の各種工事並びに定期点検を行うと共に、主として和敬塾本館を収益事業として外部への貸出を行った。

(2) 入寮学生の共同生活による修養・研鑽への援助（2号事業）

①入塾式、塾祭、体育祭、予餞会、シンポジウム、日本伝統歳事の実施

* 新入生受入れ行事を含む入塾式、創立記念塾祭、各寮対抗競技の体育祭、予餞会の四大大行事を企画し実行することによって自主性、協調性を養い、自らの人間形成に資するよう実施した。

②新入塾生に対する和敬塾設立理念並びに生活規範のオリエンテーション

* 和敬塾設立理念等を理解させるべく新入塾生オリエンテーションを行った。

* 生活規範への理解として、各寮においてオリエンテーションを行った。

③教養講座並びに教養活動の開催及び活性化

* 入塾式の一環として教養講座紹介フェアを開催し、在塾生が中心となって模範演技等を行い各教養講座へ新入塾生の勧誘に努めた。

* 各教養講座のより一層の活性化を図る為、師範・顧問・塾生が各講座の意義を共通認識して、積極的に参加を呼びかけた。

④塾生委員会が主催する年間行事の指導

* 各寮塾生代表者、各寮長、塾役職員による全塾会議を開催し、日常生活への指導を含め行った。

* 各行事（体育祭・塾祭等）に関しては、その目的・意義を認識させ塾生が主体性をもって企画、実施、反省を行なうよう指導した。

⑤一年生面談及び年末一・二・三年生継続面接の実施

* 寮長、副寮長が、塾生と個別に面談し、それぞれの生活実態について話し合い、より人間的な成長を促した。

具体的には、6月～7月にかけて新入塾生と面談し、面談内容をそれぞれの父母へ、大学生として初めて共同生活を体験したことにより起きた心の変化や成長を

伝えた。また、12月～1月にかけては一年生、二年生、三年生と対話し、自分の役割や学年毎の役割を気づかせるとともに継続在塾の意志を確認している。

⑥寮長及び副寮長による日常生活を通じた徳育指導

*各寮委員会の会議、各寮総会への参加並びに日常生活での様々な場面をとらえて行なった。

⑦塾誌「和敬」並びに「和敬塾だより」の発行

*「和敬塾だより」第1号を7月に発行し、塾行事や新入塾生を紹介した。また、1月に第2号を発行し、卒塾生を紹介した。

⑧塾友、外部との交流活動並びに研修会等への支援

*7月6日～7日にかけて、中華民国大学生訪日研修団と当塾塾生との交流合宿が和敬塾本館にて行なわれ、塾内見学、茶道体験、歓迎夕食会、討論会などを通して文化交流を行なった。

*塾友による企業説明会等が開催された。

⑨塾友会（塾OB会）との各種情報交換並びに講演会等の共同企画

*和敬塾卒塾生のOB会である塾友会との連携を深めるため緊密な情報交換を行うとともに、「賀詞交歓会」、講演会を含む「ホームカミング大会」等への協力を行なった。

⑩日本人学生と留学生との交流による相互理解の促進

*塾主催行事並びに各寮委員会行事、各寮の班行事への参加を通して相互理解を深めた。

⑪所轄官庁の協力による防災意識並びに安全管理の啓蒙

*必要に応じて大塚警察署並びに小石川消防署、小石川保健所等から助言を受け防災訓練の実施等、防災体制の確立に努めた。

*防災倉庫、備蓄食糧庫、災害時用諸機材の点検などを定期的に行なっている。

⑫地域社会との交流を目指した近隣文化活動等の実施

*塾生の地域社会に対する奉仕の実践の場として、地域の美化活動等を行なった。

(3) 講演会・講座・討論会等の開催（3号事業）

①入塾式、塾祭、予餞会での記念講演

*後述の通り、各界の有識者をお招きして開催した。

②役職員並びに講師と塾生との懇談会並びに懇親会

*新・旧塾生委員会交代会等を開催した。

*講演会では、質疑応答の時間や講師との対話をする場を設けた。

③塾生主催による講演会、シンポジウム等の定期開催

*異寮寮生による、学部生も参加できる研究発表会等を行なった。

④別冊「和敬」による講演記録の発行

*別冊「和敬」第48号として、小説家 誉田龍一先生による平成28年秋季シンポジウム「人生の可能性」を発行した。

⑤在塾生の為の企業説明会並びにマナー講習会

*外部の講師を招聘し、就職活動等に資するべくマナー講習会を行った。

⑥班会議並びに寮内討論会の開催

*各寮において、寮総会等を開催し、また、班会議も随時に行った。

(4) 奨学金の貸与（4号事業）

①学部生10名、大学院生3名、計13名に貸与した。

(5) 東京都指定有形文化財「旧細川侯爵邸」の保存並びに活用 (5号事業)

①本館文化財指定に基づく一般公開

*概ね各月2回程度を目処とした定期公開等の自主公開並びに東京都主催による文化財ウィークにおいて一般公開を行なった。参加者は、約1,150名であった。

②塾生のための文化事業並びに国際交流の場としての活用

*中華民国大学生訪日研修団と塾生との交流の場として活用した

*茶道部、坐禅道部等の会場として活用した。

*コンサート、演劇等文化的催しに塾生が参加した。

(6) その他、第4条の目的を達成するために必要な事業 (6号事業)

①ホームページの継続的情報発信による募集活動

*和敬塾公式サイトを全面改訂した。

*情報発信力を高めるため、既存のホームページのほか、和敬塾公式FaceBookを開設し、随時イベントや、塾生の日々の生活を紹介した。

*募集活動では、塾友からの支援、塾生並びに塾生保護者からの紹介を得た。

*早稲田大学合格者に配布される冊子「学生寮のご案内」に大学提携寮として和敬塾の案内が掲載された。その他、在寮が二年間である早稲田大学直営寮の退寮者に和敬塾の案内を配布、早稲田大学直営寮のレジデント・アシスタントの研修会場として和敬塾の小講堂を使用、また、留学生短期プログラムの宿舎として和敬塾を紹介等、早稲田大学との関係が深まった。

*留学生および海外駐在員の子弟募集のため、東京工業大学、学習院大学、東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学、ラテンアメリカ協会、日本在外企業協会、日本貿易振興機構(ジェトロ)、外務省、を訪問した。

*「海外子女教育」誌に帰国子女向けの記事広告を掲載した(8月号、9月号)

*「海外子女教育」誌の記事広告をチラシにして「帰国生のための学校説明会・相談会」(8/1)で配布した。

*日本テレビ「AKBINGO!」(8/1、8/8)に協力し、和敬塾が紹介された。

*今年度訪問した高校(約50校)に体験宿泊チラシ、50年史DVD等を発送した。

*「学生会館ほっとステーション」「学生寮ガイド」等の学生寮情報サイトに登録した。

*新聞折込チラシを福岡・広島・愛知で配布した(12/9)。

*東大生協パンフレットに広告を掲載した。

*中高一貫校情報サイト「シリタス」に掲載された全国の寮付設の中高一貫校及び有名校に新聞折込チラシを送付した。

*日本教育新聞(1/15号、1/22号)に広告を掲載した。

*不動産情報サイト「e-部屋探し」「学校から探す賃貸物件」に登録した。

②新規収益事業の開発

*使用中止予定の南寮棟、乾寮棟の活用を含めて検討中である。

③地籍確定

*文京区立新江戸川公園(現:肥後細川庭園)の改修工事に伴い、当該箇所の隣地境界に関する協議を行い、ほぼ作業は終了した。同地との境界画定は平成30年度になる予定である。

(7) 講演会、シンポジウム、セミナー、文化活動

年月日		
平成 29. 4. 9 入塾式 記念講演会	演題 講師	“前向きさ”の重要性について 株式会社 ホテルオークラ 代表取締役社長 荻 田 敏 宏
平成 29. 5. 14 創立記念塾祭 記念講演会	演題 講師	世界の潮流にどう対処するか 元NHK会長、早稲田大学評議員 海 老 沢 勝 二
平成 29. 12. 10 予餞会 記念講演会	演題 講師	『総合商社におけるリーダーシップ』 —社会に出る皆さんに向けて— 丸紅株式会社 取締役会長 朝 田 照 男
平成 29. 12. 13 シンポジウム	演題 講師	地政学的に見た世界予測と日本の未来 株式会社 国際協力銀行 産業ファイナンス部門 参事役 阿 由 葉 真 司

(8) 教養講座

一流講師の直接指導を受けて、合宿や会食も取り入れ、お互いに切磋琢磨をはかっている。実施した講座と講師は下記の通り。

(講 座 名)	(講 師)	(講 座 名)	(講 師)
茶 道	江川 宗京	棋 道	津村 勲夫
空 手 道	岡 精近	書 道	岡本 光平
中 国 古 典 輪 読 会	信夫 息游	居 合 道	山崎 誉
直 心 影 流 法 定	〃	絵 画 研 究 会	上葛 明広
剣 道	塚本 博之	坐 禅	高石 昭二郎
柔 道	柏崎 克彦	グレートブックス研究会	犬塚 潤一郎

(9) 入塾選考

入塾選考は、入塾願書による選考の後、塾設立の趣旨、塾生活の内容を説明し、理解させた上で面接または書類選考を行い、入塾を決定している。なお、平成29年度の新入塾生は日本人新入生59名（春：新一年48名、新二年2名、新四年2名、院生6名 秋：新一年1名）、日本人再入塾8名、留学生30名の計97名であった。なお、平成28年度の新入塾生は日本人新入生62名（春：新一年50名、新二年4名、新三年1名、院生6名 秋：院生1名）、日本人再入塾7名、留学生57名の計126名であった。

(10) 留学生への援助

平成29年度は、74名の留学生が在籍し、日本人塾生との共同生活並びに行事や教養講座への参加・活動を通して、日本文化への理解を深めている。尚、平成28年度は107名の留学生が在籍した。（1～4ヶ月程度の短期生も含む）

大学別塾生数一覧表

(平成29年4月1日現在)

No	大 学	一年生	二年生	三年生	四年生	大学院	留学生	合 計
1	早稲田大学	11	13	15	17	16	35	107
2	東京大学	1	1	6	3	10	2	23
3	上智大学	3	1	1	2	0	14	21
4	明治大学	4	5	3	4	1	0	17
5	日本大学	2	4	3	3	0	0	12
6	学習院大学	1	3	3	1	0	3	11
7	慶應義塾大学	3	3	0	2	0	0	8
8	青山学院大学	3	3	1	0	0	0	7
9	立教大学	1	1	1	2	2	0	7
10	中央大学	1	0	0	4	1	0	6
11	東京理科大学	3	1	0	2	0	0	6
12	法政大学	0	3	0	3	0	0	6
13	東洋大学	1	0	1	2	0	0	4
14	國學院大学	3	0	0	0	0	0	3
15	成蹊大学	0	0	2	0	1	0	3
16	成城大学	2	0	0	1	0	0	3
17	専修大学	2	0	0	1	0	0	3
18	立正大学	2	0	0	1	0	0	3
19	国土館大学	0	1	0	1	0	0	2
20	駒澤大学	0	0	0	2	0	0	2
21	芝浦工業大学	0	1	0	1	0	0	2
22	拓殖大学	1	1	0	0	0	0	2
23	東京工業大学	0	0	0	0	2	0	2
24	神田外語大学	0	0	1	0	0	0	1
25	帝京平成大学	0	0	0	1	0	0	1
26	電気通信大学	0	0	0	1	0	0	1
27	東京海洋大学	1	0	0	0	0	0	1
28	東京歯科大学	0	0	1	0	0	0	1
29	東京電機大学	0	0	0	0	1	0	1
30	東京農業大学	0	0	0	1	0	0	1
31	東洋学園大学	1	0	0	0	0	0	1
32	二松學舎大学	0	0	0	1	0	0	1
33	日本医科大学	0	1	0	0	0	0	1
34	日本歯科大学	1	0	0	0	0	0	1
35	日本獣医生命科学大学	1	0	0	0	0	0	1
36	武蔵野大学	0	0	0	1	0	0	1
37	明治学院大学	0	0	0	1	0	0	1
38	明星大学	0	0	0	0	1	0	1
39	目白大学	0	0	0	1	0	0	1
	合 計	48	42	38	59	35	54	276
	昨 年 度	50	57	63	71	34	65	340

2. 処務の概要

役員等に関する事項

(平成30年3月31日現在)

役職名	氏名	就任年月日	担任職務	常勤・非常勤
理事	前川正雄	H24. 2. 1	理事長	非常勤
〃	前川昭一	〃	塾長	非常勤
〃	佐藤一義	H25. 11. 1	専務理事	常勤
〃	栃木弘義	H24. 2. 1		非常勤
〃	岩崎嘉夫	H24. 2. 1		〃
〃	奥島孝康	H24. 9. 24		〃
〃	松原達哉	H24. 2. 1		〃
〃	藁谷友紀	〃		〃
〃	上田清	H27. 6. 23		〃
〃	柳川邦衛	H27. 6. 23		〃
〃	岩木勅一	H28. 6. 27	南寮寮長	常勤
〃	加茂田信則	H29. 4. 21		〃
監事	笠原將敏	H24. 2. 1		非常勤
〃	山内豊	〃		〃
評議員	加藤英二	H24. 2. 1		非常勤
〃	河合素直	〃		〃
〃	田島信元	〃		〃
〃	細越峻	〃		〃
〃	前川正	〃		〃
〃	松岡章次	〃		〃
〃	宮野忠夫	〃		〃
〃	渡邊重範	〃		〃
〃	石光豊	H27. 6. 23		〃
〃	太田朝生	〃		〃
〃	福原毅	〃		〃

3. 役員会等に関する事項

(1)理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 29. 6. 12	1. 公益財団法人 和敬塾平成 28 年度事業報告並びに決算報告の承認に関する件	原案どおり可決
	2. 任期満了に伴う次期理事候補者の承認に関する件	原案どおり可決
	3. 定時評議員会招集に関する件	原案どおり可決
	4. 平成 29 年度資産取得計画の修正に関する件	原案どおり可決
	5. 塾の現状報告	報告事項
平成 29. 6. 27	1. 代表理事、業務執行理事選定の件	原案どおり可決
平成 29. 10. 30	1. 役員（理事・評議員）人事について	報告事項
	2. 塾の現状報告	報告事項
平成 30. 3. 26	1. 公益財団法人和敬塾平成 30 年度事業計画並びに収支予算の承認に関する件	原案どおり可決
	2. 公益財団法人和敬塾長期修繕計画（平成 30 年度版）並びに資産取得計画（平成 30 年度版）の承認に関する件	原案どおり可決
	3. 資産取得積立資産取崩の件	原案どおり可決
	4. 理事候補者選定に関する件	原案どおり可決
	5. 塾の現状報告に関する件	報告事項

(2)定時評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成 29. 6. 27	1. 公益財団法人和敬塾 平成 28 年度事業報告に関する件	報告事項
	2. 公益財団法人和敬塾 平成 28 年度決算報告の承認に関する件	原案どおり可決
	3. 次期理事の選任に関する件	原案どおり可決
	4. 塾の現状報告に関する件	報告事項

4. 附属明細書

平成 29 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項にて規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。